



目次

- 特集 第41回関東オープン——
- 関東オープンを考える 1
- 地区オープンに「是」と「非」の声 4
- 「ノット」に悩み「ノット」散った 6
- 第41回関東オープンゴルフ選手権競技成績表 9

- 海の向うのうらやましいお話し 10
- 第11回関東ジュニアゴルフ選手権競技成績表 11
- 明日のゴルフ界は君たちのものだ 12
- 分科委員会 14
- お知らせ 16

表紙Photo東ノ宮カントリークラブ
(撮影 深井昌司・KGA広報委員)

KGA 関東ゴルフ連盟

特集 第41回関東オープン

関東オープン を考える

KGA 副理事長 中井文治

聞き手 広報委員 杉山通敬

写 真 広報委員 石川博英



関東オープンについて、さまざまな憶測が飛び交っている。

関東、関西プロとごっちゃまぜになって、今年が最後だと、賞金が安いからスター選手が欠場するとか……。

確かに開催方式の見直し時期にかかっていることは事実である。

そのあたりを、オープン準備委員長でもある中井副理事長に語っていただく。

全国規模か現行のままか

——今年の大会期間中にいろいろな方に、関東オープンについてアンケート調査（4ページ参照）をしたのですが、皆さんの意見を絞り込んでいくと、いったい何のために関東オープンを開催するのか。また関東ゴルフ連盟はどういう目的を持つ団体なのかという根源的な問題にぶつかりました。

「関東地域のゴルフの発展と育成、というのが連盟の目的、その目的に沿って関東オープンを開催してきたわけで、言葉のうえでは明解ですね。地区オープンであるゆえに、アマチュアにも地元の新人や若手に出演のチャンスが与えられ、プレーヤーの育成という面では目的は達成されたと言ってよいです。

よう、関東にかぎって言えばね。地域的な発展とか育成が目的だったわけですが、現状をみるとすでに全国的な規模で各種のトーナメントが開催されていますから、はたしてこのままの形で関東オープンを存続させていくことがよいのか、現状に即した全国規模の競技にしたのがよいのか、これは各地区連盟とのかね合いがありますから関東独自でコトを起こすわけにはいかないわけで、どちらの道を選ぶにせよコンセンサスをとりながら煮つめていかなければならぬと思います。」

——アンケート調査では、関東オープンと関西オープンを隔年開催にしたらどうか、という意見が主としてプロから多く出ています。

「それは無理でしょうね。というのは各地区連盟（全国8連盟）は、同じような地域のゴルフの発展と育成という目的のためにオープン競技（北海道、関東、中部、関西、中四国、九州、東北のみ未開催）を行なっているわけで、その目的が達成した地区とそうでない地区がある。地方へいけばいくほど育成という点で育っていない。あるいは九州オープンのように地元に根づいた競技もあって、せっかくここまで育ててきたのだから存続させたいという気運が強い所もある。地区連盟がある以上、連盟主催のチャンピオンシップは開催されるべきものだと思いますね。」

—そこで各地区連盟の持ち回り開催で、全国規模の統合的なオープン競技にしたらどうかという提案があるので、これについてのお考えを聞かせて下さい。

「JGAの政策委員会で出た議題の一つですが、やはり地区連盟がお互いにタイアップしながらやることで結論は出ません。主催連盟の地域性、たとえば地元のアマチュアやプロの出場ワクを広げるなどして地域性を出すにしても、全国規模のオープン競技ということになれば日本オープンとの位置づけ、関係をどうするか。それにプロ協会側の意向もあるでしょうし。」

—その一方、地域ゴルフの健全な育成という点では現行のままでよいという意見もかなりあります。

「あくまでも所期の目的に沿ってやるなら、その意見も無視できません。ただプロがからむことで、プロ協会のトーナメント規定も考慮をしなければならない。賞金総額4,000万円以上がツアートーナメントの資格になるそうですが(来年から)、これだと今の地区オープンは全部、資格がない。それならそれでかまわないということで、現行のままもっと地域性の濃いオープンとして特色をだしていくのも一つの存在理由になると思う。ゴルフの健全育成という見地に立てば、各地区連盟の持ち回り開催にしても、現行のまま充実を図っていくにしても同じ目的のためにトーナメントを行うことには変わりないわけ、どちらを取るかはポリシーの問題になるのではないか。」

—日本のゴルフの現況は接待ゴルフで潤っているのだと思います。ゴルフをスポーツとしてみた場合、これは健全なり方ではなはわけで、多額な賞金のスポンサートーナメントも接待ゴルフの延長上にあるのではないかでしょうか。賞金の多少で価値判断するのではなく、アマチュアとプロが一緒になって、ゴルフとはいかにプレーするべきものなのか、ゴルフはどういうスポーツなのか、ということを地道に浸透させていくことが何よりも必要なことなのではないでしょうか。

「それを全国規模で展開していくか、地区連盟が独自のポリシーをもって行なっていくか、いずれにしてもJGAが首領をとってコンセンサスを得なければ

ならない。来年度はすでに日程も開催コースも決定していますので、賞金はともかくとして、今までどおり開催する予定です。プロ協会にも、ひとまず来年度はツアーカップとして認めるよう申し入れてあります。しかし再来年以降のことはまだ結論が出ていません。」



コースセッティングと USGA方式

—関東オープンのコースセッティングは難しそうという意見が聞かれます。日本のコースをUSGAのマニュアルにあてはめてセットするのは無理ではないか、というのですが……。

「以前はそういう声を聞きましたが、最近はどうですか。特に今年はないように思う。たしかにUSGAのマニュアルそのまま日本のコースセッティングにあてはめると無理がある。コースは芝などに地域性があって、コーライズを15センチも伸ばしたら打てやしない。8月に古賀さん(関東オープン競技委員長)、川田さん(同副委員長)、大山さん(東ノ宮CC社長)とコースを視察した際に、同じラフでも伸ばす所と押さえる所をチェックした。マニュアルではラフは15センチですが、今回は8センチから10センチです。フェアウェイのシェーピングにしても、コースの基本設計を尊重した。ですから全体に無理のないセッティングに仕上がったと思います。」

—アンケートでも今年は良かったと答えた選手がほとんどでした。

「コースを関東オープン用に造り変えるのではなく、設計者のオリジナルがどうだったかをまず吟味する必要がある。一般ゴルファーが日頃、プレーしている時はフェアウェイも広くラフも浅い。グリーン周りやフェアウェイヒラフのシェーピングにしても基本設計とはかなり変わっている。それをオリジナルに戻してみて、どことどこを手直しすればいいか検討する。『元』に戻すだけで十分である場合が多いわけで、なにかなんでもマニュアル通りに仕上げるようなことはしなくなりました。試合が終わったら翌日から一般営業するわけですからその点も十分に考慮しているつもりです。ただ、出場選手の技術を公平にテストするためにはどうしても、いつもよりはラフを伸ばしたりフェアウェイを絞ったりしなければならない。そこにマニュアルの特性との絡みが出てくるわけで、今回はそれがうまくいったように思います。」

—10年以上も前でしたが、大会が終わった翌日にラフを刈ったら、茎の部分から刈り落としたので枯らしてしまい、修復するのに苦労したコースがありましたね。

—ええ、ありました。ふだんならフェアウェイなのにオープンの時はラフにしたので、その部分をいき

なり短く刈ったらしい。経験したことがないのでそういう失敗をしたわけで、現在はその点についての配慮と指導もしているつもりです。」

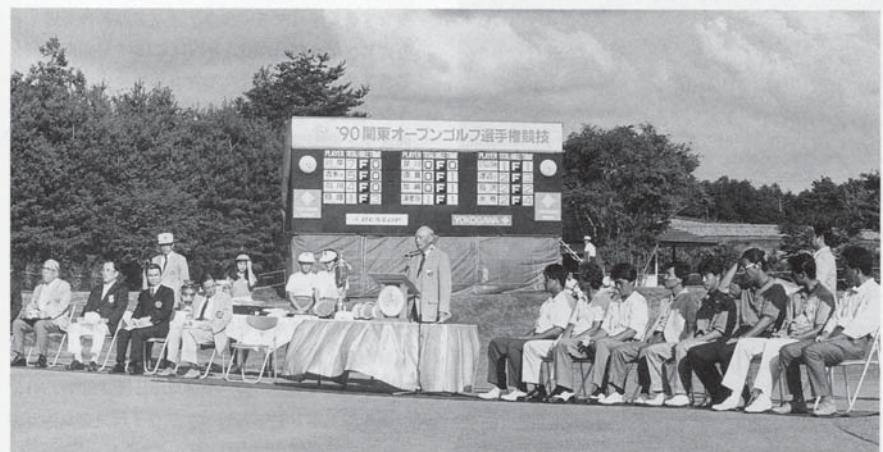
—配慮といえば開催コースに対する財政面での負担も考えなければならない問題ではないでしょうか。

「実は日本オープンでは今年から、開催コースへの入場券割当てなくすることにしました。日本の一流企業5社にそれぞれ3,500万円、合計1億7,500万円の協力をいただき、これはマージンがありますのでネットは少し減りますけど、ほかにNHKの放映料や入場券売り上げなどありますから、今までのように開催コースに特別な負担をお願いしなくてもすむようになった。これをそのまま、関東オープンにあてはめて考えることは出来ないにしても、参考になると思います。それもこれも関東オープンの意義づけをはっきりさせてからのことでしょうね。」

—全国規模の大会にするか、このまま地区オープンを存続させるか、どちらにしても方針(ポリシー)が固まれば策は自ずから生れるでしょうね。」

「今年いっぱい、遅くとも来春まではどちらの道を選ぶか、決定しなければならない。各地区連盟やプロ協会ともよく相談して、割り切るべき所は割切って、すっきりした方針を立てたいと思います。」

—道は二つに絞られているといってよろしいですか。現時点ではそうだと思いますね。」



イラスト・山県和彦/写真・深井昌司

地区オープンに「是」と「非」の声

ファンあってのプロである。

ギャラリーあってのトーナメントである。

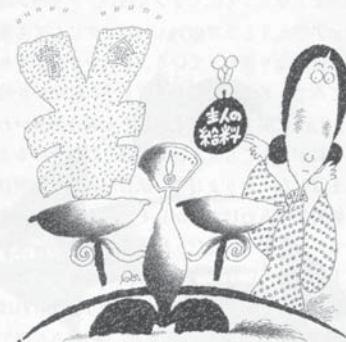
彼らの素直な声を大会の場でひろってみた。

関東オープンアンケート質問事項
(関係者・選手、プレス、委員) 回答者58名

- 賞金
 - 安い(26名)
 - 普通(6名)
 - 高い(0名)
- イと答えた人
 - 総額5千万円(20)
 - 6千万(19)
 - 7千万(1)
 - 8千万(3)
 - 1億(3)
- 現在、6地区オープンが同時開催されているが
 - 関東、関西の2つにした方が良い(21)
 - 各地区持ち回りで開催した方が良い(20)
 - 現行のままで良い(17)
- いわゆるスター選手が欠場するは
 - 賞金が安いから(42)
 - コースセッティングが難しいから(4)
 - その他(16)疲れて休みをとりたい他
- 開催方式
 - もっとスポンサーをつけた方が良い(36)
 - スポンサーはつけるべきではない(4)
 - 現行のままで良い(14)
- 日本オープン出場資格について
 - 地区オープンに出場しない選手でも出場できるのはおかしい(20)
 - 別々の競技なのだから、現行のままで良い(30)

関東オープンアンケート質問事項
(ギャラリー) 回答者43名

- 関東オープンの観戦は
 - 今これが初めて(30名)
 - 2回目(4名)
 - 3回(3)
 - 4回(1)
- 観戦に来た目的は
 - 好きな選手が出演しているから(11)
 - 自分のプレーの参考にしたいから(12)
 - 入場券をもらったから(18)
- 賞金
 - 総額3000万円は高い(0)
 - 安い(32)
 - 適正(9)
 - わからない(2)
- プレイヤーの態度は(含 服装)
 - 良い(10)
 - 普通(30)
 - 悪い(3)
- ギャラリーへのサービスは
 - スタンドの数は少ない(0)
 - これで良い(43)
 - ギャラリープラザの飲食は高い(30)
 - 普通(13)
 - 安い(0)
 - トイレの数は少ない(0)
 - これで良い(43)
 - 多い(0)



別掲のアンケートはトーナメント期間中に面接採集したもので、その内訳は関係者(選手、プレス、連盟委員)58名、ギャラリー43であった。回答の集計結果は数字の通りなので、ここでは数字には表られないコメントを紹介することにする(敬称略)。

青木功 3日間競技の女子プロにでさえ賞金総額は4,000万円、優勝は720万円なのだから、4日間の男子がこれでは(総額3,000万、優勝600万)、いかにも安すぎる。コースのセッティングは、今年はリーズナブルだった。USGA方式にしたがうのはよいが、アメリカと日本では芝がちがうのでそのまま採用するのは選手の健康管理上疑問だ。コーライズを長く伸ばすと茎が強いて手首や肘などの関節を痛めかねない。ラフをことさら伸ばさなくとも曲げたショットとフェアウェイをキープしたショットでは、はっきりとした差がつく。今回はその点、うまくセッティングされていた。

芹沢信雄 アマあってのプロだから、この種のオープン競技はゴルフ界の全体的な発展のためには意義があると思う。それにしても賞金が少し安すぎると(彼の②の回答は総額5,000万円、優勝900万円)。

堀越栄治郎(ベストアマ) サラリーマンなので年間の出場試合は4つの公式戦(関東アマとオープン、

日本アマとオープン)にしばっている。それだけに関東オープンのようなプロと一緒にプレー出来る試合は勉強になるし、自分の実力を知るうえでも楽しみ(試合中は苦しみ)している。私にとっていい試合だ。アマが40人も出場できるのだから、競技運営もスポンサー色が濃くならないように配慮したはうがいいと思う。

川田太三(同オープンのテレビ解説者) 連盟が存続するかぎり、その連盟が主催するチャンピオンシップも存続させるべきだ。しかし現状のままで各地区連盟のオープン競技が分散しているので、各県単位の地方オープンとかわらなくなるおそれがある。各地区連盟の持ち回り開催で、各オープンを1本化したうえで地方色を出す工夫をしたらどうか。コースのセッティングは今年はよかったです。USGA方式をいたずらに模倣するのではなく、開催コースの特性を生かした上で融合させていくべきで、ミニユアルドおりにフェアウェイを狭くしたりラフを伸ばしたりするのを疑問だ。

羽佐間正雄(同オープンのアナウンサー) 今年のUSオープンの視聴率は23%、去年の関東オープンが13.6%、いままでもっとも高かったのは青木ヒクラスがマッチレースを展開した1980年のUSオープンで45%。視聴者は自らの価値観をもってゴルフのトーナメント中継を評価するようになってきた。放送に携わる者として、そうした価値観に応えるためにも、現在の各地区連盟主催のオープンを統合して持ち回り開催することを望みたい。統合すれば賞金も1億円以上になるはずだ。トーナメントの名称は「日本クラシック」というのはどうだろうか。オリエンピックではNHKと民放各社が協同制作するようになったが、ゴルフでもピック・イベントになればそういう協力体制が可能だと思う。

武藤一彦(報知新聞) 他の地区オープンも含め、ゴルフ振興を前面に出すのなら現行の形が望ましいのではないか。

桑原洋(東京スポーツ) 選手間からも出ていることだが、優勝者には何か特典を与えるべきだ。そうすれば賞金が安くても名誉を運ぶ感覚が強くなる。現状では公式戦といっても権威を感じられない。

角田満弘(月刊パーゴルフ編集長) 地域ゴルフの

振興という各地区オープンの本来の目的に沿って開催するのであれば、PGAの賞金ランキングとは無関係なゲームであっていいと思う。であれば、トッププロが出なくても、その分、急増しているアマ出場ワクを広げればいい。

菅野徳雄(日本ゴルフジャーナリスト協会理事) 地区オープンが細分化したのに、公式戦としての権威も薄れた。開催期が夏バテの時期もあり、秋のピックマニーのかかったトーナメントに備える体調整備の時期もあり、現状のままでスキップする選手が増えていくだろう。

山田八郎(同オープン競技副委員長) ゴルフの底辺を拡大するうえで各地区オープンはその地区的アマや出場機会の少ない地元プロにチャンスが与えられ、本来の役目を果たしているのではないか。賞金だけがエスカレートするのは望ましいことではない。NHKも関東オープンだけを放映するではなく、他の地区オープンとの多元放送をしたら、全国規模の「お祭り」気分が盛り上ると思う。

ギャラリー(男性、48歳) 賞金は高いにこしたことはないが、オープン競技の目的はプロとアマの交流にあるのだから、一流プロがもっと出てほしい。何年も連続して出場しないような選手は、いくらスターでも応援たくない。そういう選手は日本オープンにも出な。

ギャラリー(男性、62歳) 関東オープンの賞金が安いのではなく、他の競技の賞金が高すぎるのだ。

ギャラリー(男性、39歳) 初めてゴルフの試合を観に来たが、テレビでは感じられない迫力があって面白かった。プロが飛ばすのと、歩くのが早いのにびっくりした。

ギャラリー(女性、25歳) 仙台に住んでるけど、北海道オープンや関西オープンを観に行ったこともある。「追っかけ」なの。地区はその地方のプロやアマが出るのか特色だと思うので、賞金を上げるばかりが能ではないと思う。

ギャラリー(女性、36歳) 賞金? 他の試合と較べれば安いけど、主人の給料に較べれば高い。4日間で600万円ですもの。

取材・構成 KGA広報委員会
イラスト・山県和彦

“パット”に悩み“パット”散った

——初陣 澤田信弘(東ノ宮)健闘及ばず——

文・塙田 賢(ゴルフ・ジャーナリスト)
写真・舟橋一芳(KGA広報委員)

川岸、青木の熾烈な闘いはTV、新聞で報道済みなのでふれないと。

一人のアマチュア、それもオーブン初参加、開催俱楽部のメンバー、クラブ・チャンピオンの若者の闘いぶりを追ってみた。

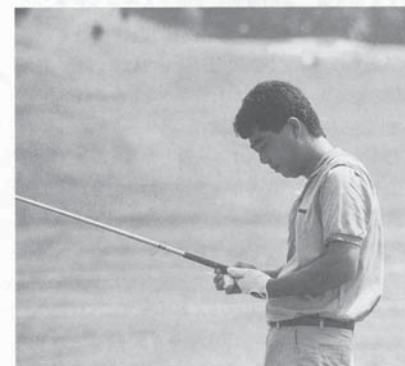
今年、私が初めて出場した関東オープンでは、初日を終わって青木功プロが「このコースは知り尽くしているだけに考えてしまい、難しい」とコメントを出しているのと同じ感覚に陥ってしまい、2日間闘つただけで予選落ちてしまいました。

カットオフラインは8エーパーまで。私は1打多い9オーパーでした。自分としてはもっとやれると思っていたし、頑張ったのですが、やはりパットがはいらないのはどうしようもありません。

東ノ宮カントリークラブのグリーンは、確かに普段より速い仕上がりでした。多分、4ミリのダブルカットだったのではないかでしょうか。こんなに速いグリーンは、これまで東ノ宮では経験したこと�이ありません。クラブ選手権のときできさえ、もつと遅い仕上がりです。そのために、普段読んでいるラインなのに読み切れず、パットが全然入ってくれなかつたのです。いま思い出しても、非常に口惜しく思います。

一生に一度のチャンス

私は関東アマ4位という実績で関東オープンに出場することができました。大学1年のころから関東アマには出場していましたが、これまで思うような



澤田選手 一打およばず、決勝ラウンド進出はならなかった

成績が上げられず、関東オープンにも出場できませんでした。それがチャレンジすること9回目にしてやっと好成績が上げられたのは、今年の関東オープンが私が所属コースで開催されたことと決して無関係ではありません。

関東オープンのような公式戦の大試合が所属コースで開催されて、しかもその試合に自分が出場できる機会など、滅多に訪れるものではありません。このチャンスを逃したら、もう一生機会には恵まれないだろうと考えると、やはり自ら気合の入れ方が違います。

結果は4日間287ストロークで4位タイ。これで関東オープン出場の資格が得られました。

私ももちろんうれしかったのですが、それ以上にゴルフ場の方々が喜んで下さり、クラブニュースにも私の写真入りで「皆様の熱い声援をお願いします」と紹介されるなど、様々な方が私を励ましてくれました。聞くところによると、東ノ宮の会員で関東オープン出場するのは、私が初めてだそうです。

そうとなれば、私も何とか期待に応えなければなりません。是非とも頑張って、東ノ宮の名前をもつと広めたいと考えても不思議ではないでしょう。しかし、これといって、私は関東オープンで好成績を上げるために、特別にやったことは何もありません。いつもどおりの練習とラウンドをこなし、その日を待ちました。というのは、関東オープンが開催される時期は、その前に関東アマがあり日本アマがあり、また報知アマがあるといった具合に、アマチュア競技が目白押なのです。ですからその流れに乗って練習していくれば自然に仕上がりていくようできているわけです。

名器も役に立たず

ところが、パットは誤算でした。関東アマではあれほどよく入ってくれたパットが、全然入ってくれません。関東アマの少し前から使い始めたウイルソンの8802はスターの名器といわれ、なるほどそうだと思っていただけに、本当にガッカリです。速さからいえば、総武の印旛コース(関東アマ決勝)のほうがずっと速かったです。

要するに普段の東ノ宮のタッチ、ラインを知りすぎているがためにかえって考えすぎてしまい、入らなかつたということだと思います。むしろ知らないほうが、予断がないだけに、入っていたかもしれません。

それでもロングパットは、よく寄ったり入ったりしました。初日の午前のハーフがいい例です。アイアンの調子がいまひとつで、ピンから間に寄らず、遠いところに乗ったものがワンパットで入ってペーディをとったりしたものでした。ところが、午後に入つてアイアンの調子が出てきて、ピンそば3メートル前後に付き始めると、とたんに入らなくなりました。短いパットが、全然入らないのです。

東ノ宮のグリーンは、見るとたくさんのコブがあります。もちろんカップまわりにも。それを読んで、読みどおりに打つと、普段なら入るのに、速い仕上がりのためにボールの切れ方が激しく、それでスライスラインもフックラインもみなカップの手前で切れていました。こここのところが私の読みやタッチと大きく違つた点でした。

初日の午後は、惜しいバーディパットが何度も外れました。まあ、いまさらこのことを口惜しいでも仕方がないし、結局は私のパット技術が粗末だったということでしょう。初日のホールアウト後、タッチをつかもうとして練習グリーンで1時間ほどボールを転がしてみましたが、やはりダメでした。そのまま2日目も引きずって惨敗です。

それに比べると、プロの方たちはパットが実際に上手い。どうしてこんなにはいるんだろうと思うぐらいにポンポンと入れていきます。やはり毎日ゴルフをやって、ボールを転がしている人たちにはかなわないな、というのが率直な印象です。

わがコースが、こんなに難しいとは……

それと同時に初めて体験した所属コースでのグリーンでの難しさ。これほどまでの好コンディションに仕上げられたのも、関東オープンという大試合の舞台となったからでしょうし、その意味で、東ノ宮の知られざる難度の高さを味あわせてもらい、連盟の方々やコースの方々に感謝したい気持ちで一杯です。

また、一緒にプレーさせていただいた佐藤英之プロ、富永浩プロ、それに大塚敏彦プロからはスコアをまとめあげるスペциスイング技術を学ばせていただき、今後の私のレベルアップにつながるのではないかと感じています。とにかくプロの方たちは、どんなところにボールを打ち込んだり曲げたりしても、しぶとくバーを拾ってきます。この真似は私にはまだできません。

初日の16番ミドルホール、2打目をグリーンの右ラフに外し、アプローチが寄らずにボギーを叩いてしまいました。ボールからピンまでの距離は10ヤードぐらい。カラーから2ヤードほど出たところですから、ラフではあってもライはそれほど悪くはないし、寄せようと思えば簡単に寄せられるところです。ところが寄せきれませんでした。

また18番ミドルホールでも2打目をグリーン右奥のラフに打ち込み、これも寄せをショートさせてボギーになってしまいましたが、ライは何でもないところです。普段なら寄せてバーを拾える自信があるところなのです。それなのに、

特集 第41回関東オープン

このような何でもないところからボギーを出してしまうと、イヤな気分になるものです。まとまるスコアもまとまりません。しかしプロは、このようなところからは確実にパーをセーブしていきます。凄いと思います。ショットは乱れているのに、上がつてみたらパーでやや、1オーバーぐらいでまとめあげているのですから、かないません。

収穫は大きかった

富永プロの弟さんは成城大学のゴルフ部で私と同じ期、また佐藤プロは成蹊大学ゴルフ部で私より4年か5年先輩です。ですからどちらも面識があり、知らない方たちではありませんから、これは気軽にプレーするうえで大変好都合なことでした。また私のキャディをやってくれた人も東ノ宮の研修生で、日頃よく一緒にプレーしている間柄です。このようにリラックスしてプレーできる条件が揃っているにもかかわらず、何でもないところからボギーを叩いてしまうのは、やはりプレッシャーを感じていたのかかもしれません。いつもとはちょっと違っていました。

スイングに関しては、2人ともレベルスイングです。これは私の目指しているところで、大変参考になったと思っています。

2年ほど前、私はスイングを改造しました。それ以前のスイングはインサイドアウトの軌道でボールを打っていました。ところがフックが出やすく、フックが出ると今度はそれが怖いので修正しようとします。すると右へそのままスッポ抜けのボールが出てしまい、スコアを崩す原因をつくっていたのです。

そのへんを先輩から指摘されて、スイングを直さない限り試合に出てもいい成績は上げられない感じる、改造に取り組んだのです。これはレベルスイングへの改造です。つまり、左右対称のスイング、このほうが球筋は安定しますし、ストレートに近いボールが出せるようになります。

このスイングが、最近、何となく身に付いてきたように思います。おかげでボールが曲がっても「いまはレベルスイングになっていないから」などと、真っすぐ飛んでいます。

ですから以前のようにボギーやダブルボギーが続くことがなくなり、1ホールだけのボギーやダブルボギーで済むようになりました。

ところが今大会では、ドライバーのティショットがみな左へ左へと飛んでいます。そのためラフにつかまることが多く、苦労させられました。

最初はドライバーの仕様が合っていないのかなと思い、初日と2日目ではシャフトの違うものを使ってみたのですが、左へ切れるボールは直りませんでした。

結局、私のレベルスイングは、完全に自分のものになっていなかったということです。もちろん、2年ぐらいたる期間で改造できるとも思っていませんが。

それが、2人のプロはきれいに身に付けています。ダウンスイングで右肩が落ちず、インパクトを中心とした左右対称のスイング。いかにもプロらしいスイングです。

スイングは、目で見て覚えるのが一番いいといわれます。ですから私も、2人のスイングをしっかりと目に焼き付けたつもりです。あとは練習あるのみでしょう。

プロの方たちと一緒にプレーすると、自分に持っていないものをたくさん披露してくれますから、大いに参考になります。またオープン競技のいいところは、そのへんにあると思います。

ただしオープン競技といってほんのひと握りトップアマしか出場できないのでは、あまり意味がないでしょう。関東オープンの場合はアマチュアが40人も出場できますから、これはアマチュアにとって門戸が広く、喜ばしいことだと考えています。

アマチュア・ゴルファーのレベルアップのためにには、できるだけ上手なプレーヤーと触れ合わせることが必要だと思います。その意味で関東オープンといえども一流のプロゴルファーが揃って出場する権威ある大会ですから、その中に混ってプレーするだけでも気分は最高です。私は予選落ちしましたが、2日間でいい経験をさせてもらいましたし、今後このことが私のレベルアップのうえで大きな糧になることは間違いないところだと思います。

有難うございました。

特集 第41回関東オープン

平成2年度(第41回) 関東オープンゴルフ選手権競技成績表

・開催コース 東ノ宮カントリークラブ 6,774ヤード、パー70
・開催期日 平成2年8月30日(木)~9月2日(日)
・参加者 136名(プロ97名、アマ39名)

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		第3ラウンド		第4ラウンド		合計					
			アウト	イン	アウト	イン	アウト	イン	アウト	イン						
1	川岸 良兼	ミズノ	31	35	66	32	32	64	38	35	73	36	34	70	273	
2	青木 功	日本電建	36	33	69	34	34	68	34	34	68	34	36	70	275	
3	羽川 豊	セントラルスポーツ	35	33	68	34	34	68	36	34	70	35	35	70	276	
4	種垣 太成	大徳興業	37	38	75	34	36	70	33	34	67	35	32	67	279	
5	加瀬 秀樹	長太郎	34	36	70	36	34	70	35	36	71	33	36	69	280	
5	泉川 ピート	UNIDEN	21	36	55	71	37	33	70	35	34	69	35	35	70	280
5	須貝 留	風山	33	37	70	36	35	71	37	33	70	34	35	69	280	
8	A.ギル ガン	ESPクラブジャパン	35	33	68	38	36	74	35	33	68	37	34	71	281	
8	海老原 清治	第一不動産	36	33	69	35	36	71	35	35	70	36	35	71	281	
10	福沢 孝秋	謹謹	37	36	73	37	35	72	37	32	69	33	35	68	282	
10	真木道 司	日本産業	37	35	72	35	33	68	38	33	71	36	35	71	282	
10	渡辺 昭義	エース交易	39	33	72	36	34	70	32	35	67	34	39	73	282	
14	水巻 善典	イントレーリアル	36	37	73	39	34	73	34	36	70	31	35	66	282	
14	湯原 信光	千代田トレーディング	38	33	71	35	39	74	34	35	69	33	36	69	283	
14	大町 利義	富士平原	35	36	71	35	32	67	37	37	74	38	33	71	283	
14	芹沢 信雄	相模原	38	34	72	34	35	69	34	34	68	39	35	74	283	
17	車嶋昭治郎	成田スプリングス	37	36	73	35	35	70	35	34	69	39	35	74	286	
18	東川 保茂	ヤマ商物産	38	36	74	32	35	67	37	34	71	36	38	74	286	
20	森 茂則	KEY COFFEE	36	36	72	35	35	70	35	35	70	37	37	75	287	
20	赤沢 全彦	トミーカンパニー	33	35	68	38	36	74	37	36	73	36	36	72	287	
20	井野 治光	富士ロイヤル	33	37	71	34	35	69	38	35	73	38	36	74	287	
23	牧野 裕裕	デサン	37	37	74	33	33	66	38	38	76	37	35	72	288	
23	陳志明	筑波産商	38	32	70	40	36	74	37	35	72	35	35	70	288	
23	植田 浩史	25周年ゴルフガーデン	37	39	76	36	35	71	34	34	68	40	33	73	288	
23	佐藤 英之	ユニアイ	35	34	69	36	37	73	36	37	73	39	34	73	288	
23	白浜 青男	ミサワリゾート	36	37	73	34	36	70	36	36	72	34	39	73	288	
28	橋本 日都	ローレルパレイ	37	35	72	35	37	72	36	36	72	38	35	73	289	
28	野口 栄樹夫	岡国際	36	36	72	35	38	73	35	36	71	36	37	73	289	
30	安田 春雄	大徳興業	34	35	69	35	36	71	38	36	70	36	37	70	290	
30	窪田 茂	黒磯	41	36	77	35	35	70	36	37	73	37	33	70	290	
32	李文生	フリーライド	38	36	74	38	34	72	40	34	74	34	37	71	291	
32	*深堀圭一郎	新千葉	36	35	70	36	38	74	37	39	76	36	35	71	291	
34	*奥延通康	茨城	35	37	72	40	34	74	38	38	76	37	33	70	292	
34	長谷川 勝治	フリード	34	36	70	37	35	72	38	36	74	36	40	76	292	
34	古山 聰	ニューセントアンドリュース	33	38	71	39	35	74	37	35	72	37	38	75	292	
34	丸山 智弘	美濃田精	37	36	73	35	37	72	34	37	71	39	37	76	292	
34	佐野 修一	北沢バルブ	35	37	72	34	35	69	37	36	73	40	38	78	292	
34	佐藤 剛平	芳賀	37	36	73	39	35	74	37	35	72	36	37	73	292	
34	町野 聰	グレンオースク	40	35	75	37	36	73	37	34	71	36	37	73	292	
34	*須藤 雄	筑波ジャンボリーゴルフ	36	39	75	36	35	71	35	35	70	39	37	76	292	
42	新井 宏成	信成	37	37	74	35	38	73	35	36	71	36	39	75	293	
42	天野 伸	フジ開発	34	35	69	37	39	76	39	36	75	34	39	73	293	
42	田和成	杉郷	37	37	74	36	35	71	37	39	76	37	35	72	293	
45	草壁 政明	Jクラブ霞ヶ浦コース	36	35	71	36	40	76	40	34	74	35	38	73	294	
45	船野 横	グリーンパーク	37	39	76	36	36	72	33	38	71	39	36	75	294	
45	飯合 明	日東興業	37	38	75	35	37	72	35	37	72	37	38	75	294	
48	横田 洋	マザーパーク	38	36	74	37	35	72	36	37	73	40	36	76	295	
48	合田 龍	ケ崎	44	36	80	35	31	66	36	40	76	38	35	73	295	
48	鈴木 定	ノーザン・赤城	37	37	74	37	37	74	38	35	73	37	37	74	295	
51	坂下 定	誠和	39	35	74	36	37	73	37	36	73	36	40	76	296	
51	大塚 敏彦	日立高鈴	36	37	73	35	39	74	39	36	75	37	37	74	296	
51	大塚 香	リ	37	37	74	36	35	71	38	38	76	39	36	75	296	
54	青柳 公也	大利	40	34	74	38	35	73	38	38	76	36	38	74	297	
54	竹安 寿博	厚岸	38	34	72	38	35	73	38	40	78	39	35	74	297	
54	池内 信	フリ	37	37	74	36	36	72	35	37	72	42	37	79	297	
57	染谷 佳一	藤ヶ谷	40	37	77	37	34	71	38	35	73	37	40	77	298	
58	中島 富男	越生	37	36	73	38	36	74	36	40	76	37	39	76	299	
58	宇野 富男	鴻興業	38	39	77	35	35	70	38	36	74	43	35	78	299	
58	菊地 孝博	ソフサ	33	39	72	37	37	74	39	39	78	39	36	75	299	
58	山高 孝	昭和ゴルフ	37	40	77	37	34	71	37	36	73	42	36	78	299	
58	芹沢 大介	デサン	38	37	75	38	35	73	41	38	79	37	35	72	299	
63	幸田 亮	湘南シーサイド	39	36	75	35	34	69	38	43	81	39	36	75	300	
63	幸田 一郎	造	36	38	74	37	37	74	38	36	74	35	43	78	300	
63	久保 和司	東富士	38	35	73	37	37	74	35	37	72	42	39	81	300	
66	幸田 博	東京五日市	35	39	74	36	38	74	36	40	76	37	40	77	301	

・失格 金子柱塞
・※印は、アマチュア選手

海の向うのうらやましいお話し

文・写真 深井昌司(KGA広報委員)

KGAでは、この夏ジュニア育成に本腰が入った。本年度のジュニア育成委員が一挙に74名となった事からも、その熱の入れ方が判ろうと云うもの。7月30日のスクールを皮切りに、8月27日まで9スクール、6予選、決勝2日、それにJGA関係の3日を入れると、この夏は18日間をジュニアのために費やしたことになる。誠に忙しい夏であった。

8月24日東京ゴルフ俱楽部で行なわれたスクールには、106名のジュニアが参加、プロ協会からも10名（男子8、女子2）のプロが指導員として参加した。その席で、7月中旬カリフォルニア、サンジェゴで開催された「世界ジュニア選手権」に、日本から男子4人、女子2人を引率して参加した松野京三ジュニア育成委員長に、いまだ猛暑のおとろえぬ緑蔭で「ジュニア育成」の抱負について語っていただいた。

今こそ意識改革を

松野さんがサンジェゴでまず感動したのは外人ジュニア達のマナーの良さという。もとよりこの地は少年ゴルファー発祥の地とも云えるところ。市営コースの10坪ほどのクラブハウスは100年の歴史を持つ。スタドラーやシンプソンもここで少年時代からゴルフに親しんだが、市民がボランティアとしてジュニア育成に熱心で、その方針は成績より行儀にあるといふ。「グリーンにオンすると、次のティに近い側に3つのバッグが並ぶ。しかし日本の子供はボールに近いところにバッグを置く」「人に迷惑をかけない、これが人間形成の基本ではないか」と松野さんは云う。

競技は4ヵ所の市営コースで行なわれ、10歳以下はパー3のいわゆるショート・コース（プレシディオ、全長1,426ヤード）、11歳～12歳までは少し長いパー3のショート・コース（シンギング・ヒルズ、2,800ヤード）13歳～14歳は、5,604ヤードのミッショントレイル、そして15歳～17歳はかのツリー・パインズ（6,706ヤード）で行なわれた。32ヵ国780



ジュニアを見守る松野委員長の目は、優しく、そして厳しい

人の少年達が参加。ボランティアのスコアラーは800人ほど。年とった人が多く、68歳というスコアラーに経験を聞くと、元南カリフォルニアのチャンピオンだった。

「ジュニア・ゴルファーをそぞろてなるなら、10歳以下から始めるべきだ。親についてコースに遊びに行き、時折り練習場で所属プロから教わり、ジュニア・タイムにラウンドさせてもらう。自然と子供がゴルフに親しんでゆくのがアメリカの方法だが、日本もそうなりたい」「今回のジュニア選手権でもスポンサーはあったが、広告はごくわずか。金のある者は出来るだけ社会に還元するというボランティア精神があるこそ、あれだけの盛り上がりになるのではないか。」松野さんは日本のゴルフ界もジュニア育成について、大きな意識革命が必要だと云う。

「ジュニア育成は日本のゴルファー全体で考えるべき時期に来ている。いまや我が国のプロ賞金は総額70億に達した。プロゴルファーもジュニア育成にもっと力を入れて欲しい。金もうけ主義のゴルフ界も、そろそろ考えを変える必要があるのだが、時間がかかるだろうなあ。」

熱心に語る松野委員長の頭上でまたひとしきりセミが鳴き出した。

平成2年度 第11回 関東ジュニアゴルフ選手権競技

（予選）

高校男子／7月23日(月) 茨城ゴルフ俱楽部(東コース・6,276ヤード・パー72、西コース・6,193ヤード・パー72)
7月25日(水)～26日(木) ノーザンカントリークラブ・錦ヶ原ゴルフ場(さくら草コース・6,823ヤード・パー72、などの花コース・5,905ヤード・パー71)
参加者1,019名

中学男子／7月24日(火) ノーザンカントリークラブ・錦ヶ原ゴルフ場(なの花コース・5,875ヤード・パー71)
参加者125名

女子／7月24日(火) ノーザンカントリークラブ・錦ヶ原ゴルフ場(さくら草コース・6,405ヤード・パー75)
参加者160名

（決勝）

高校男子／8月1日(水)～2日(木) 武藏カントリークラブ(笛井コース・7,012ヤード・パー72)
参加者146名

中学男子／武藏カントリークラブ(笛井コース・7,012ヤード・パー72)
参加者17名

女子／武藏カントリークラブ(笛井コース・6,548ヤード・パー72)
参加者23名

〈高校男子の部〉

順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計	順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計	順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計	
優勝	白浜 浩	高啓明 学園(3)	74	73	147	61	亘井 透	埼玉 県(2)	82	83	165	121	谷 幸治	成田 北(3)	88	87	175	
2	宮本 勝	高島 水城(3)	77	70	147	61	桜井 正毅	前橋 實英(3)	82	83	165	121	小野寺 義典	土浦 大(3)	86	89	175	
3	金野 康	東洋 安(2)	74	74	148	61	近藤 鉄也	小松 実(1)	81	84	165	121	皆川 宏	水城(2)	85	90	175	
4	長尾 卓	榎木(1)	78	72	150	61	岩本 岩	日体 莘(3)	81	84	165	121	毛利 荣希	聖学院(3)	85	90	175	
5	荒井 規一郎	飯能(2)	75	75	150	61	神山 隆志	富士 土官(2)	85	80	165	121	和田谷 邦夫	日体 須(3)	84	91	175	
6	中島 敏智	学館 鹿安(3)	78	73	151	61	松浦 浩	富士 土官(2)	85	80	165	126	小川 孝之	佐野 大(2)	89	91	177	
7	横尾 要	東洋 安(3)	75	75	151	61	矢野 哲太	富士 日体(2)	80	85	165	127	大園 並一郎	埼玉 実(1)	88	91	179	
8	片山 山	水木(3)	75	76	151	61	室田 地平	高崎 向	上(3)	81	85	165	128	布川 義久	慶應(3)	88	92	180
9	久田 伸	体 莘(1)	77	75	152	61	富岡 駿	幸興 城(2)	83	82	165	128	松田 水基	向(2)	失格			
10	中村 成	吉崎 玉(1)	80	73	153	61	青木 優	優秀 城(2)	82	82	165							
11	黒川 貴洋	鹿島(3)	80	73	153	61	方山 成朱	大 中野(3)	83	82	165							
12	鈴木 雅士	木城(2)	74	79	153	61	鈴木 謙三	日体 莘(2)	75	90	165							
13	山本 木求	水城(3)	80	74	154	74	岡野 忠	広尾 山(2)	87	79	166							
14	伊藤 蘭	修司 城(3)	79	75	154	74	久保田 喜	保満 大(3)	85	81	166							
15	原口 鉄也	吉澤 安(1)	76	75	154	74	池田 吉徳	小山 小(3)	82	85	167							
16	菊地 琴	学館 安(3)	76	78	154	76	青木 隆治	聖学院(3)	82	85	167							
17	松元 史	昌史(3)	78	72	154	76	尾星 又	泰義 则(2)	81	86	167							
18	色部 昭	拓大 紅陵(1)	81	74	155	76	高田 駿	明中 八王(2)	84	83	167							
19	重原 利香	利水(2)	81	74	156	76	向江 夏	同大 伸(1)	83	84	167							
20	水沼 亮	光水(3)	78	77	155	76	佐藤 駿	吉澤 仁(2)	87	81	167							
21	天一 君	水城(3)	80	76	156	76	伊東 貴彦	吉澤 仁(2)	87	81	168							
22	石川 康	康徳(2)	78	78	156	76	神保 伸	美林 伸(2)	85	83	168							
23	対馬 駿	剛志(2)	75	80	156	84	小野瀬 久雄	大葉 伸(1)	88	81	169							
24	大作 崇	西 台 芝(3)	75	81	156	84	中村 敏	駿 敏(2)	86	81	169							
25	大原 田	武秀(2)	74	79	157	84	馬場 智	聖二 明中 八王(1)	87	82	169							
26	熊沢 伸	利水(2)	79	75	157	84	鶴川 美穂	吉澤 仁(2)	88	83	169							
27	木下 一臣	水城(3)	81	77	158	84	染谷 治	吉澤 仁(2)	88	83	169							
28	比留間 俊光	日大(1)	79	79	158	84	杉森 智	和培 玉(2)	85	87	170							
29	利根川 豪	西 台 芝(3)	79	79	158	90	土屋 崇	西 台 芝(2)	87	83	170							
30	沖 一	日体 莘(2)	79	79	158	90	中野 崇	明日 明(2)	86	84	170							
31	橋本 仁	日体 莘(1)	77	81	161	90	鈴木 健一	日体 莘(2)	86	84	170							
32	島 中	大輔(2)	75	83	158	90	小林 功	佐野 大(2)	85	85	170							
33	有賀 貴	前橋 英(3)	79	80	159	90	今井 伸	日大(2)	84	86	170							
34	木平 幸孝	幸(3)	84	75	159	90	足立 伸	日大(2)	83	87	170							
35	太田 純	一水(2)	78	81	159	90	田辺 直孝	日大(2)	82	83	171							
36	岡田 周	木城(3)	81	77	158	90	日野 和也	日大(2)	84	83	171							
37	森 貴之輔	利水(2)	78	77	158	90	野沢 潤	水城(2)	84	87	171							
38	日野 雄	明中 八王(3)	83	77	160	90	長谷川 駿	日野 黒(3)	84	87	171							
39	日廣 実	東洋 安(2)	79	82	161	90	長谷川 尚	明中 八王(1)	87	87	171							
40	宝田 宏	西 台 芝(3)	77	84	161	90	中野 伸	秀信 泉(3)	83	88	171							
41	松本 宏	英大 中野(3)	74	87	161	90	佐藤 康	正常 関(3)	87	85	171							
42	松井 英	直也(2)	80	80	159	90	吉本 勇	日大(2)	82	83	171							
43	宮嶋 鳴	直也(2)	87	75	162	102	吉本 寿宏	日大(1)	86	86	172							
44	遠間 開	武彦(2)	80	82	162	102	竹山 康彦	日大(1)	86	86	172							
45	込 隆	宏	日大(2)	82	82	162	102	染谷 智	玉城(2)	87	87	172						
46	渡辺 伸	祐之(2)	81	81	162	102	稻田 勇茂	西 台 芝(1)	87	87	172							
47	蓑邊 繁	祐(2)	82	81	163	102	橋波 勇	西 台 芝(1)	87	87	172							
48	吉原 裕比古	日大(3)	82	81	163	107	手塚 拓磨	日体 莘(1)	88	85	173							
49	北山 保	士 士(3)	80	83	163	107	石川 順康	日大(2)	88	85	173							
50	矢野 学	京 葵(2)	80	83	163	107	明石 雄	日大(3)	87	86	173							
51	矢野 駿	聖学院(3)	79	84	163	107	石田 勝	日体 莘(1)	88	88	173							
52	川合 幸	前橋 育(3)	81	83	164	107	眞理 有和	和幸 鹿島(2)	85	88	173							
53	内 貴	勝 莉(3)	82	82	164	107	上野 真	直吉 石(2)	83	90	173							
54	青藤 仁	日高(3)	86	78	164	107	南山 繁	智輝 体(1)	88	86	174							
55	鶴志 田	学 土(2)	85	79	164	107	神山 昌	大 中野(3)	88	86	174							
56	佐藤 嘉	弘 大 中野(2)	79	85	164	107	諸 誠	清 浩(2)	85	87	174							
57	柴 荣	純 水浦 和院(2)	78	86	164	107	内田 智	翠華 塵(2)	88	87	174							
58	上野 伸	秀明 水城(1)	78	86	164	107	小川 阳	陽(2)	85	89	174							
59	秋山 利	伊 東(2)	78	86	164	107	山本 阳	和行(2)	84	90	174							

〈高校男子の部〉

順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計	順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計	順位	氏名	学校名/学年	I.R	2R	合計
優勝	石井 隆	笠 緑	笠	笠	176	2	大杉 正実	土	土	土	177	3	豊岡 弘	行	日	日	177
2	大杉 正実	土	土	土	177</td												

明日のゴルフ界は君たちのものだ

ルポ・宮元昭雄（KGA広報委員）

写真・石川博英（KGA広報委員）

筑波カントリークラブ（茨城）では、加盟俱楽部の

先頭をきって、俱楽部主催のジュニア教室を開催した。

この活動は、いわばジュニア育成活動の基盤である。ここから育ったジュニアが、KGA主催ジュニア・スクール、関東ジュニア、日本ジュニアという順を追って成長していく。相撲でいえば、『序の口』、いずれは大闘、横綱となる大物がいるにちがいない。



初めてのバンカーショット、指導プロのスイングに注目

筑波カントリークラブの第1回ジュニア教室は、今年の4月に開講した。6月3日に第2回目、年に6回程度のスクール開設を考えているという。そこで同俱楽部の水野武支配人に先ず話を聞いてみた。

「ゴルフ場がオープンして30年余の歴史を持ち、会員自体がコースに誇りを持つ意識が強くなってきた。そして俱楽部内のあらゆることにメンバーとして関心を高く持っているし、クラブ・ライフもよい雰囲気で創りだされています。メンバーが共通の目的で協力し合う、つまりジュニア問題も適当な年齢の子供がない人もいるが、基本的にジュニアの将来を考えると、より質のよいメンバーとして残って貰う為にも教育の必要性を理解してくれました。危険が生じないということを前提に俱楽部のスクール開設

には快く協力をしてくれています。

問題は俱楽部の施設をどのように使うか、ということが大きなポイントでした。

練習所のドライビング・レンジは17打席、1打席2名としても精々35名が限度ということで、参加者を制限しました。

理事会の理解も得られたので、メンバーに通知し、実子または孫の範囲ということを条件に募集しました。

俱楽部のメンバーの平均年齢が57歳、かなり高いので適応する年齢の子供がいるかどうか心配でした。また50人を越えると俱楽部の雰囲気も損なわれるとも考えられましたので、30名を限度として第1回目を行いました。ところが大変好評でしたので、シーズンを通して出来るだけ回数を多くスクールを設けたいと思っています。会員の理解が得られたことが何よりも大きいです。

KGAの俱楽部単位でスクールを開設させようという狙いは、大変結構なアイディアだと思います。」

同俱楽部のスクールの参加費は1人3,000円、当初は1,000円程度という考えもあったそうだが、あまり安くては熱心さに影響するということで、食事代や練習ボール代の実費ということで3,000円に決めたとのこと。

参加者を4班に分け、上級、中級、初心者、女子として、それぞれに所属プロ（柏瀬、飯泉両プロ）や研修生（松原）の外にKGAの委員などが直接指導に当たっていた。午前中は全員、ドライビング練習所でボールを打ち、午後は各班がショートアプローチ、バンカー、グリーンでのパターの練習と、約40分単位のローテーションを組んで午後4時近くまで練習をする。

4時から上級者は9ホール、女子及び初心者は1～3ホールを実際にラウンドさせていた。



スイングもマナーも最初の指導が大事

全員に目土袋を持たせ、背丈より大きいバックを肩に担ぐ低学年の子供たちには、ちょっと無理ではないか、という感じさえ見られたが、それでも子供達は勇んでコースに飛び出して行った。

各班に1人の割りでつく指導員も大変だが初心者の班には研修生など2～3人が特別に随行するなど、ラウンドは初めてだ、という子供達にとっては、ゴルフの苦痛というよりもより新しい体験にチャレンジする気持ちの方が勇んでいるように見えた。

昼食は俱楽部側の心づくしのカレーライス大盛り、野菜サラダ、フルーツ、ジュースなど、食卓を賑やかに囲む元気な子供達の顔が印象的だった。

8歳の増田直之君などは、「おわり。するほどの元気ぶりだ。初参加の常住治臣君（8歳）は「おじいちゃんと一緒にゴルフ場に来るけど、とてもおもしろい」と。最初は戸惑っていたようだが、時間と共に子供同士はすぐに友達になってしまうのだろう。それがスクールの良さかもしれない。

宮里浩美さん（13歳）は、「練習所には家族とよく行きましたが、コースは初めて。ドキドキしちゃって！」と。持っているクラブは一流品がズラリ揃えられていた。

桑原崇君（13歳）の母親は、熱心に子供の練習する姿を見つめていたが、「大変ありがとうございました。子供が伸び伸びとしてきました」とスクール参加を絶賛していた。

同俱楽部の露競技委員長は「俱楽部の理解のもとにスクールが開設されたが、少人数で実施することが、子供達1人1人の面倒を見てやれる。ルールやマナーも実技を通じて教えるようにすれば、おも

しろさの中によく理解をするようになるだろう。塾で勉強するのと異って、仲間意識があつて成長も早いように思う。」

すでに関東では、2～3の俱楽部が実施し始めたという。

反響は、徐々に広がっていくことであろう。この試みを成功させる為にも、傍観者があつてはならないし、その為には一日も早く環境整備に手をつくすべきであろう。

大人の面倒も見られない俱楽部が子供達のことまで……という考えがあることは事実だが、メンバーが自らのコースのプレステージを求め、メンバー自身がその誇りと自尊心を自覚するようになれば、俱楽部内におけるジュニア問題も必然的に理解されてこよう。またそうなることを期待したいものである。

KGAジュニア育成委員長の松野京三氏は「今のようにゴルフ場が乱立すると、将来は質の競争を強いられる時代が必ず来る。大切なことは、会員にどのようなサービスをするか、ということが問題になる時代になる。」

それぞれの家庭に家風というものがあるように、ゴルフ俱楽部にもよりよいクラブ・ライフが持てる名実共に会員に喜ばれる気風をつくるべきでしょう。いわば会員に対して常識的な軽が必要なわけで、今日のように会員権が高額になると、若い世代の人達の入会は極めて難しくなります。

大半は両親や祖父母の持っていた会員権を相続する、つまり現在のジュニア達が、そのコースのメンバーとなるわけですから、今のうちからより良いゴルファーになる為と軽をしておくことは決して悪い事ではない筈です。」

確かにその通りである。

ゴルフ界全体が歴史に比較してマナーや実技の点で見おとりしない時代を築く為にも、大人が責任をもって育てあげるべきだ。

誰かがやつてくれるだろう、と他人まかせてなく、ゴルフにかかるすべての人達が、より積極的にジュニア育成という大きな問題に正面からきっちり取り組んで貰いたいものである。

筆者はそんなことを思いながら、筑波のジュニア・スクールを後にしたのだった。

ジュニア・ゴルファー育成資金に1,000万円

東ノ宮カントリークラブより、第41回関東オープン開催を記念して、ジュニア・ゴルファー育成資金として1,000万円、ご寄贈いただきました。

大会終了後、クラブハウスにて催されたパーティー席上、東ノ宮カントリークラブ大山隆成理事より、細川関東ゴルフ連盟理事長に贈呈されました。

細川理事長は「これほどの大金をご寄贈いただき感謝にたえない。ジュニア育成のために有効に使わせていただく」と謝辞を述べられました。



分科委員会

平成2年度第3回コース・レート委員会 議事録

日 時 平成2年9月6日(木)
場 所 JGA会議室
出席者 尾関委員長、新井、北村副委員長、
小室、前川、松岡、中川、中野、岡田、佐久間
各委員

—討議及び決議事項—

1. ツインレイクスカントリー倶楽部以下7倶楽部のコース・レート査定について

上記倶楽部のコース・レートについて、机上配布の資料をもとに次記のように決定した。

(1)ツインレイクスカントリー倶楽部

ペントグリーン	パック・ティ	73.2
レギュラー・ティ		69.8

(2)東那須カントリークラブ

コーライグリーン	パック・ティ	69.5
レギュラー・ティ		68.0

ペントグリーン	パック・ティ	70.5
レギュラー・ティ		68.7

(3)玉造ゴルフ倶楽部 若海コース	コーライグリーン	70.2
ペントグリーン	パック・ティ	68.0
(4)立科芙蓉カントリー倶楽部	ペントグリーン	71.6
ペントグリーン	レギュラー・ティ	69.2
(5)児玉スプリングスカントリー倶楽部	ペントグリーン	71.0
ペントグリーン	パック・ティ	68.4
(6)敷島カントリー倶楽部	ペントグリーン	71.2
ペントグリーン	レギュラー・ティ	69.2
(7)武藏丘陵カントリー倶楽部	コーライグリーン	70.2
ペントグリーン	パック・ティ	68.9
ペントグリーン	レギュラー・ティ	69.4
ペントグリーン	パック・ティ	68.4

分科委員会

平成2年度第2回ジュニア育成委員会正副委員長会議 議事録

日 時 平成2年9月4日(火)17時
場 所 JGA会議室
出席者 松野委員長、紅露、大久保、織戸、大鷲各副委員長

—討議及び決議事項—

1. 今年度、夏季ジュニアスクール及び、関東ジュニアの総括及び、次年度開催方針

検討事項が多岐にわたるため今会議においては、急ぎ決定する事項のみ討議決定した。

イ. 初めての事であり、募集方法、PR、運営等、試行錯誤をくり返したが、さしたるトラブル、事故もなかった。成功裡に終了したものと評価したい。

ロ. 次年度については、今年度開催倶楽部にひきつづきお願いする。但し、初心者教室を設け、ノーザン錦ヶ原ゴルフ場をこれにあてる。

ハ. 募集方法等については、速やかに再検討するが、とくに、高ゴルフの協力姿勢に問題があったので改善方を要望する。

ニ. 開催倶楽部への支払いは、参加人数の多寡にかかわらず、18ホール1日借用したものとして考え、50万とする。

但し、食事代他は、3,000円×参加人数分とする。

ホ. 冬休みスクールについては、今年度は開催しない。

ヘ. 春休みは、2会場にて、開催し、候補倶楽部と交渉する。

ト. 関東ジュニアの予選については、今年度の参加予想人数から以下のとおりとする。

- ・中学男子 1ブロック
- ・女子 1ブロック
- ・高校男子 7ブロック

平成2年度第4回月例競技委員会 議事録

日 時 平成2年9月14日(金) 正午
場 所 KGA
出席者 斎藤委員長、山崎副委員長、
平山、松井、本吉、中野、岡田、阪田、鳴田 各委員
学生連盟委員

—討議及び決議事項—

1. 8月度競技報告及び総括

山崎委員より下記の報告及び総括がなされた。
小さいコーライグリーンに加え、強風のなかでの優

分科委員会

勝スコア男子70ストローク、女子77ストロークは好成績であった。また、俱楽部の協力もあり、無事終了した。

エントリー数他は以下のとおり

開催日 平成2年8月17日(金)
コース 我孫子ゴルフ俱楽部
エントリー 162名(男子121名、女子41名)
欠席者数 事前連絡 11名(男子8名、女子3名)
当日連絡 3名(男子3名、女子0名)
無断欠席 0名
出場者数 148名(男子110、女子38)
科罰者 0名
ミーティング欠席 1名
横田英治(学連)
失格者 0名
棄権者 0名
ブレーオフ なし

3. 9月例出場資格者報告の件

男子 680名(-10) 女子 300名(+13)

4. 9月のテーマ

- ・ディボットの修復の徹底
- ・ティの前方を横切らない

お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟俱楽部便覧」の変更事項は次記のとおりです。訂正加筆をお願いします。

理事長

・穗高カントークラブ

(新)井上 六郎

(旧)青木 昌尚

・鷹ゴルフ俱楽部

(新)金井 芳雄

俱楽部代表者

・穗高カントークラブ

(新)井上 六郎

(旧)青木 昌尚

・鷹ゴルフ俱楽部

(新)金井 芳雄

(旧)佐藤 充雄

- ・伊東ゴルフ俱楽部
(新)佐々木史郎
(〃)越智 郁郎
- ・都留カントークラブ
(新)久保 満
(旧)多田 環
- ・府中カントークラブ
(新)湖上 升
(旧)草野 和幸
- ・支配人
・鷹ゴルフ俱楽部
(新)菅野 勝之
(旧)諸岡 純介
- ・名称変更
(新)ゴルフ俱楽部インターナショナルエアポート
(旧)国際空港ゴルフ俱楽部